
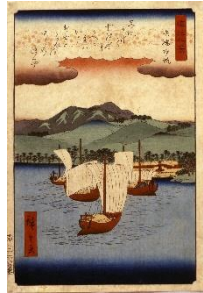




読むのがむずかしいときは、おうちの人といっしょに読んでね。

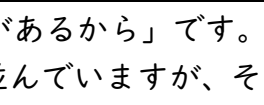
もんだい 1	答えは②のマークです。この草津市のマーク(市章)は、「くさつ」の3文字をイラストのようにしたものです。
こたえ ②	<p style="text-align: center;">く さ つ ⇒ </p> <p>ちなみに、①は滋賀県のマーク(県章)です。 こちらは「シ」「ガ」の文字をイラストのようにして左右に置いたデザインで、真ん中の空間が琵琶湖をかたどっています。</p>

もんだい 2	答えは①の「明治天皇」です。草津宿本陣で、明治元年(1868)9月21日と12月21日、明治2年(1869)3月7日、と明治11年(1878)10月12日、10月20日に明治天皇を迎え入れました。
こたえ ①	②の昭和天皇の時代には、本陣としての役割を終えています。 ③の聖武天皇は今から1,300年以上も前の天皇なので、今から約400年前につくられた草津宿本陣には泊まっていません。

もんだい 3	答えは③の「やばせ港」です。 草津市には江戸時代、山田港・志那港・矢橋港という3つの港がありました。特に賑わったのが矢橋港で、矢橋港から大津の港まで、人や物を運ぶための船が行き来し、その様子は浮世絵にも描かれています。
こたえ ③	<p>ちなみに、近江八景とは「矢橋帰帆」「粟津晴嵐」「瀬田夕照」「三井晩鐘」「唐崎夜雨」「石山秋月」「堅田落雁」「比良暮雪」の8つの景色を指します。</p> <div style="text-align: right;">  <small>(草津市蔵) 歌川広重画 「五十三次名所図会 五十三 草津」</small> </div>

もんだい 4	答えは③の「アオバナ」です。 このアオバナのしぼり汁を、何回も和紙に塗り重ねてつくられるのが「青花紙」です。
こたえ ③	<p>アオバナの花の青色の色素は水に流れやすいという特徴を持っているため、「青花紙」は友禅染などの着物の模様の下書き用の絵具として使われています。</p> <p>最近では、アオバナの成分が体に良いということが分かり、お茶などの食品にも使われています。</p> <div style="text-align: right;">  <small>青花紙</small> </div>

<p>もんだい 5</p>	<p>答えは②の「真珠をつくるため」です。</p>	
<p>こたえ ②</p>	<p>淡水真珠（湖で作られる真珠）は白くて丸い海の真珠と異なり、ピンクや金色などの淡い色合いのものがあったり、様々な形があたりと一つひとつが個性を持っているのが特徴です。淡水真珠の養殖は、草津市の志那地区で養殖が成功して以来、現在も県内ではその伝統が受け継がれています。</p>	<p>淡水真珠 (画像：草津市農林水産課)</p>

<p>もんだい 6</p>	<p>答えは①の「天井と同じくらい高いところに川の底があるから」です。</p>	
<p>こたえ ①</p>	<p>草津川跡地公園へ行くと、にぎわい活動棟やお店が並んでいますが、そこが天井川だったころの旧草津川の川の底です。天井川は、(1)川の底に土がたまっていく→(2)川底が高くなって水があふれやすくなる→(3)洪水などの災害が起きないようにたまった土をさらって、川岸の堤を高くする→→(1)→(2)→(3)……と(1)～(3)を繰り返していくことで作られていきます。天井川と宿場町がそろって光景は珍しく、草津を描く浮世絵の題材としてもしばしば登場します。</p>	<p>草津川跡地公園 (de 愛ひろば) (画像：草津市草津川跡地整備課)</p>

<p>もんだい 7</p>	<p>答えは①の「土器（昔の人が使ったお茶わんやお皿）」です。</p>	
<p>こたえ ①</p>	<p>「土器」はいわゆるお皿やお茶わんなどの、今でも日常的に使われている道具の仲間です。 ②の「はにわ」は使われる場所や使われていた時代が限定されます。 ③の「石鏃」は石で作られた矢の先端部分で、非常に小さく、使われていた時代が限られるため、土器ほどの量は見つかりません。</p>	<p>③石鏃</p>



①土器（須恵器）



③石鏃

【問合せ先】

草津市歴史文化財課 〒525-8588 草津市草津三丁目 13-30

TEL : 077-561-2429 FAX : 077-561-2488 E-mail : bunkazai@city.kusatsu.lg.jp